

3-9. NPO 法人フジの森（東京都檜原村）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

東京都西多摩郡檜原村は東京都の西南端に位置し、村の面積の 80%が秩父多摩甲斐国立公園に指定されている。村の観光の中心には日本の滝百選に選ばれた「払沢の滝」があり、年間約 6 万人の観光客が訪れる。この滝の入口に当法人が管理運営する地産地消の店「四季の里」がある。また、近くに今年度より当法人が指定管理者として 35 ヘクタールの森を「ふるさとの森」として再生し、管理運営することとなった。

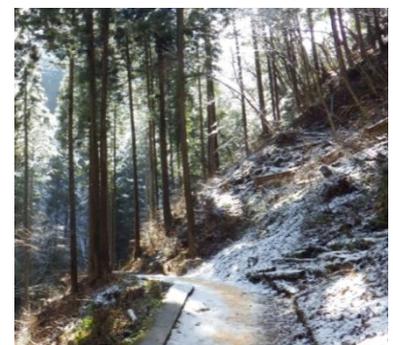
この地区は近年住宅等の建設により若い世帯が増えてきており、30 代前後の若手で組織する「払沢の滝冬まつり実行委員会」、「払沢の滝とゆかいな仲間たち」、就労を考えている「NPO 法人つむぎ」や地域の特産物による食事を考えている「四季の里スタッフ」、また、東京都レンジャーと OB の日本山岳ガイドや若手林業会社があり、森の恵みを生かした事業化が望まれている。

そこで、地域の資源を活用する仕組を考え、試行的に実施するエコツアーの取組について、アドバイザーの助言・指導を反映させることを計画した。当地域は今 30 代前後の若い世代が活発に活動し始めていおり、村内の方々の中には、檜原村が外から見て魅力的であるという事に気付いていない人や、自信が持てない人が多い。

そうした人たちとともに檜原村の魅力を探し伝えていくことや、子どもを持つ世代にエコツーリズムの考え方や仕組が浸透することは重要と考えている。

(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 25 年 2 月 21 日（木）～平成 25 年 2 月 22 日（金）
場 所	東京都西多摩郡檜原村本宿地域 払沢の滝、ふるさとの森周辺
ア ド バ イ ザ ー	京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏
参 加 者	檜原村産業環境課産業観光係、檜原村村議会議員、東京都レンジャー、檜原豆腐ちとせ屋、檜原紅茶、元環境省、NPO 法人フジの森 計 14 名
スケジュール・方法	<p>【1 日目】 払沢の滝周辺の問題点を視察、ふるさとの森の活用方法を視察 本宿地区の四季の里を会場に講演会</p> <p>【2 日目】 払沢の滝観光客の動向を視察、エコツアーの可能性を検証</p>



(3) アドバイスの内容

● 払沢の滝周辺の問題点を視察

- ・ 払沢の滝は日本滝 100 選に選ばれた東京で唯一の滝である。滝を見に来ている観光客は年間 65000 人いるが、観光地の賑わいや楽しさに欠ける。どのようにすれば魅力がでるのかアドバイスいただきたいと考えた。

(アドバイザーのコメント)

- ・ ガイドを付けると滝に行くまでの自然や植物の案内や歴史等もできる
- ・ 東京都とは思えない滝の大きさ、自然の多さは観光資源として魅力である
- ・ 道が広くないため、大人数の場合は工夫が必要である
- ・ 行きかう人と交わす「こんにちは」という挨拶も楽しみである
- ・ 柵等が無い箇所があり、危険な場所は整備すべきだ
- ・ 錆びた水道管等が見え、景観がよくない
- ・ 滝について、もっと詳しい解説板等があっても良い
- ・ 滝へ行く途中にある「森のささやき」の話好きの店主も観光客にとって魅力

● ふるさとの森の活用方法を視察

- ・ ふるさとの森は当法人が管理する 35 ヘクタールの広葉樹林の森で、バスの停留所から歩いて 5 分で森の入口につくことができる。しかし、34 年間放置されて荒廃しており、森づくり体験を組み込んだエコツアーが可能かどうかをアドバイスいただきたいと考えた。



(アドバイザーのコメント)

- ・ アクセスの良さは魅力である
- ・ 敷地内の山頂からは、檜原村でもあまりない三頭山と大嶽山が同時に見える
- ・ 人工林のスギ・ヒノキと照葉樹林、落葉広葉樹林を体験できる植生の豊かさがある
- ・ イノシシのヌタ場やテンやリスの糞等があり、野生動物も多く生息している
- ・ ガイドを付けた方が楽しめる。気軽に誰でもが行ける場所にはない工夫があっても良い。
- ・ 未整備の森で急斜面が多いので安全面に問題。安全柵や補助ロープがあった方が良い場所がある。
- ・ 山頂まで行く 1 日コースの場合、トイレが無い
- ・ 落葉広葉樹林のため冬は葉が落ちて景観が良いが、夏は何も見えないので適度の伐採が必要である。

● 四季の里を会場とした講演会

- ・ 視察を踏まえて、「払沢の滝とふるさとの森周辺はエコツアーになりえるか」というテーマで、地域を巻き込んだ形でエコツアーを実現するための勉強会を行った。
- ・ まず、エコツーリズムとは何か、宝とは何か、宝探しの方法等について学び、更に各地の事例を紹介しながら、地域ごとのカラー（個性）を活かした展開の有る事を知ることができた。
- ・ 参加者からは、宝を見つけてからの磨きの方法、宝の組み合わせ方、宝の魅力を伝えるガイドの育成等について、質問があり、アドバイザーの助言に、更に質問が続く等、熱のこもった応答がなされた。
- ・ 旅行業を持っていない場合との質問に、日本エコツーリズム協会が 2 種を取り、旅行業もあるので、ツアーを組めるようになった、との回答があった。
- ・ 旅行業界では、エコツアーと呼ばず、着地型観光と言い換えるとのことを知ることができた。また他県の事

例では、まず県内の客を引き付け、それから県外客を呼ぶように近くところの客が来るように、東京都内向けのデスティネーションキャンペーンを展開して着地型観光を売り出した方が良いとの助言をいただいた。

● 弘沢の滝観光客の動向を視察

(アドバイザーのコメント)

- ・ 東京近郊からの来訪者が多い
- ・ 年齢層は若いカップルも多いので若者誘導の動きがあっても良い
- ・ 滝までの道のりは険しくないためか、高齢者も訪れやすい
- ・ 小さな子にも危険が無いので、利用する年齢層は幅広い

● 意見交換～エコツアーの可能性を検証

- ・ 檜原の観光地弘沢の滝周辺と 35 ヘクタールのふるさとの森のエコツアーの可能性とフェノロジーカレンダー、マップのアドバイスを希望し、真板氏と当法人スタッフで意見交換を行った。
- ・ 講演会の参加者を中心に宝探しの実現を目指し、その際の指導・助言を真板氏にお願いしたいと伝えた。

(4) アドバイザー派遣の効果

● 参加者や関係者に与えた効果

- ・ 地域の資源を活用する仕組である、宝探しについて関心が高まった。後日、参加者からアドバイザーに対して、宝探しをどのように始めたら良いか、と問い合わせがあった。
- ・ エコツアーの取組、プログラムの組み方、ガイドの養成、予算の組み方、利益の配分等、実現に向けて積極的な質問があり、アドバイザーから事例に基づく助言をいただいた。
- ・ 参加者の発言の中に村にも隠れた小さな魅力がいっぱいあるとの意見が出る等、改めて村の魅力を伝えることの意義を感じたようだ。
- ・ エコツーリズムで村の良さを売り出す方法を考える契機となる講演だった。

● 今後の期待される効果

- ・ 若い方達を中心に村の隠れた魅力を見出す宝探しを実施。
- ・ 宝探しの成果を活かすフェノロジーカレンダーや宝を紹介するマップの作成等
- ・ 地元の豆腐や茶葉を使った紅茶について、新しいストーリーを作り、土産物となる商品の開発
- ・ ふるさとの森の整備と安全なハイキングコースの展開
- ・ 弘沢の滝及びふるさとの森を取り込んだエコツアーのモニターツアーの開催

(5) アドバイザー派遣を実施して (地域からの声)

● 参考となった事項

- ・ 参加者が、各地の事例を知り、檜原村でもまだできることがあると気が付いたのは、大変に良かった。
- ・ 宝探しをして、地元の人が組んだツアープログラムに連れて行くというエコツアーは大変新鮮で、若い方がこれからの地域の活性化の方向を見出したと思われる。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

京都嵯峨芸術大学 芸術学部 観光デザイン学科 教授 真板 昭夫 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状

檜原村フジの森は今から 25 年前に富士フィルムグリーンファンドのモデル地域として資金の提供を受けて宿泊体験施設「フジの森」を建設し、地元の青年会であった冬来塾が中心となって、都市に住む人々に森の中での自然活動や森づくり体験プログラムを景供する所からスタートしている。後に、今から数年前に周辺の森林 2 ヘクタールを村に買い取ってもらって、NPO 法人「フジの森」として第 2 期のスタートを開始。宿泊施設としての「フジの森」の活用、更に指定管理施設として「教育の森」研修施設を連携活用し、さまざまな体験プログラムを年に 90 回以上実施している。また「四季の里」レストランを地域のお母さん達の参加を促しながら運営し、観光客に郷土食を提供したり、更には木を用いたログハウスや檜原紅茶等のさまざまな物産開発を行って村の活性化に係っている。更に昨年からは自然ふれあい体験地域づくりとして、放置されていた森を整備活用した「ふるさとの森」作りを進めている。

檜原夫人を巻き込んだ食と地域の若者による体験と研修、そして森作りをコーディネートして、一体化させた村おこしに係る「エコツーリズムプログラム」の策定を開始し、実施に向けた体制づくりの準備を始めている。

●アドバイス（講義等）の概要

（ツアープログラム開発とともに物産開発のあり方）

全国エコツーリズム大会の成功を地域の力として真に獲得していくためには、継続と、それを可能にする仕組みが必要である。檜原の地域づくりという目標にたち、ツアープログラム開発とともに物産開発のあり方について講義した。また地域資源をどのように紹介する事が地域の魅力を観光客に伝える事になるのかについてアドバイスをを行った。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・檜原村は、その資源の特性から見てエコツーリズムが核となる、むしろここ数十年の活動内容から見て、既に一部実施されているとさえ思われた。今後は早々に全村的な中核的な組織を起ち上げ、エコツーリズムを推進して行ってほしい。
- ・今後は、更なる推進のためにも、エコツアー・プログラムに仕立て、プロモーションから販売までもっていくことのできるエコツーリズム・プロデューサー、あるいはランドオペレーター、地域コーディネーター等、名称はともかく、地域の宝とツアー客のニーズをつなぐ人材育成が急務であると思われた。